

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

仙台市市民活動サポートセンターの休館日は、第2・第4水曜日(祝日の場合は、翌日の木曜日)と、年末年始の12月29日から1月3日までです。年末年始期間中に係わる貸室申込手続き期限や申込受付開始日が変わりますのでご注意ください。

■年末年始の貸室申込予約の手続き期限について

通常は、予約をした日を含め7日以内に使用申込手続きをしなければなりません。が、年末から年始明け4日までに手続き期限となる申込予約に限り、1月11日(木)が予約期限となります。

申込予約期限			
受付日	通常手続締切日		本申込締切日
12/21(木)	12/27(水)	休館日	2017年12月28日(木)
12/22(金)	12/28(木)	通常開館	2017年12月28日(木)
12/23(土・祝)	12/29(金)	休館日	通常では、2018年1月4日(木)が申込締切日となりますが、1月11日(木)が期限となります。
12/24(日)	12/30(土)		
12/25(月)	12/31(日)		
12/26(火)	1/1(月)		
12/27(水)	1/2(火)		
12/28(木)	1/3(水)		
1/4(木)	1/10(水)	休館日	2018年1月11日(木)
1/5(金)	1/11(木)	通常開館	2018年1月11日(木)

■年末年始の貸室申込の受付開始日について

通常、セミナーホール及びシアター全日・区分使用の場合は、6ヶ月前からの受付開始、研修室及びシアター時間使用の場合は、3ヶ月前からの受付開始となっております。貸室使用申込の受付開始日が年末年始休館日期間にあたる場合は、年始休館日明けの1月4日が受付開始日となります。

申込受付開始日		
受付日	セミナーホール シアター全日・区分	研修室 シアター時間貸
12/24(日)	6月24日(日)	3月24日(土)
12/25(月)	6月25日(月)	3月25日(日)
12/26(火)	6月26日(火)	3月26日(月)
12/27(水)	休館日	
12/28(木)	6月28日(木)*	3月27日(火)*
*6/27(水)、3/28(水)は休館日です。		
1/4(木)	6月29日(金)～7月4日(水)	3月29日(木)～4月4日(水)
1/5(金)	7月5日(木)	4月5日(木)

※受付開始日の貸室申込予約は、午後2時以降となります。

サポートセンター工事のお知らせ

施設補修及び改修のため、下記期間で工事を行います。期間中も開館いたしますが、一部ご利用いただけないサービスが発生する可能性もあります。詳細が決まり次第、サポートセンターのホームページ等にてお知らせいたします。

期間：2017年12月下旬～2018年2月中旬

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 12月13日(水)、27日(水)	
開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年12月1日
編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 宮崎真央 小野真璃子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 12

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.220

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、
それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

青空応援団 団長
たいら りょう
平 了 さん (39)

エール送り続け 誰もが応援しあえる街に

平さんは、社会人応援団として、頑張る全ての人へエールを送っています。体育館、学校、病室などこへでも駆けつけ、気合の入った声で激励します。10月の東北・みやぎ復興マラソン2017では、7時間休まずランナーを応援し続けました。エールを受けた人たちからの「応援ありがとう」という声は何よりのやりがいです。高校時代3年間打ち込んだ応援団で、頑張る人の意志に寄り添い、励まし続ける大切さを学んだ平さん。応援を受けた人は、一人で目標へ臨むより多くの力を発揮できます。卒業後は応援から離れていましたが、東日本大震災をきっかけに、かつてのOBに声をかけ2013年6月に応援団を結成。「自分達の手で前へ進む被災者を応援したい！」と再び応援魂に火がつけました。青空応援団には、青空を見上げる度に応援してくれる人の存在を思い出してほしいという意味がこめられています。

人を励ます魅力を多くの人に伝え、誰もが誰かを応援しあえる街になることを願って、平さんは全力でエールを送り続けます。

取材・文 市民ライター 安藤 綾香

特集

市民と行政で提案する

公園の新たな使い方、楽しみ方

青空応援団

HP http://aozoraouendan.jimdo.com

仙台にはじまり、関東、関西、島根県隠岐郡海士町に支部があり、合わせて80人が活動しています。活動は主に週末。団体、個人を問わず、競技会、宴会場など、様々な場面で応援を求める人へエールを送ります。また、県内の小学校にも応援に出向き、夢を持ち努力すること、それを互いに応援しあうことのカッコ良さを子どもたちに伝えています。2016年の応援回数は100回以上、エールの動画を1000件以上送りました。各種応援依頼、団員随時募集中。詳しくはHPをご覧ください。

市民と行政で提案する 公園の新たな使い方、楽しみ方

仙台市都心部の西部、広瀬川沿いにある「西公園」は、市内で最も歴史が長い公園です。明治時代の1875年に開園し、お花見や七夕花火などのイベントで仙台市民に親しまれてきました。そんな西公園を、もっと自分の庭のように楽しみ、親しんでもらいたい。仙台市と西公園に関わる市民団体、専門家の協働でこれからの公園のあり方を探る取り組みを紹介します。

西公園を育てるラボ

市民とともに魅力ある公園づくりをしたい

市民の多様なアイデアで公園をもっと身近で楽しい場所にしたい



仙台市青葉区
建設部公園課
いとうとしお
伊藤俊夫 さん



仙台市建設局
公園課
さとう かよこ
佐藤香代子 さん



NPO法人
都市デザインワークス
とよしまじゅんいち
豊嶋純一 さん



西公園
プレーパークの会
ささき けい ち
佐々木啓子 さん



西公園を遊ぶプロジェクト
せきぐちれい こ
関口怜子 さん



しみずち か
清水千佳 さん

市民と一緒に考え取り組む社会実験

2017年9月22日から10月22日まで、西公園北側エリアで「西公園4WEEKS(以下、4WEEKS)」が開催されました。主催は「西公園を育てるラボ(以下、育てるラボ)」。

西公園で活動する西公園プレーパークの会(以下、プレーパークの会)と西公園を遊ぶプロジェクト(以下、遊ぶP)、公園の管理者である仙台市の建設局公園課(以下、局公園課)、青葉区公園課(以下、区公園課)、事務局を担うNPO法人都市デザインワークス(以下、UDW)で構成されています。

4WEEKSは、市民が楽しみながら公園を活用する方法を考える社会実験です。西公園を訪れる人をもてなすプログラムを実施するパークキャストを市民から募集。ヨガや大道芸など28組のプログラムが週末を中心に行われ、新しい公園の楽しみ方が示されました。UDWの豊嶋純一さんは「市民に多様なアイデアを提案してもらうことで、公園利活用のニーズを掘り起こし、西公園の魅力を引き出すのが狙いです」と話します。

期間中は、西公園の一角にパークハウスを設置して、育てるラボメンバーが交代で常駐しました。遊び道具の貸出など公園利用をサポートしながら利用を見守り、市民が担い手となる公園づくりには何が必要なのかを探りました。人がいる安心感から、親子連れがベビーカーや荷物を

パークハウス前に置いて、のびのびと遊ぶようになりました。「監視ではなく、市民同士のあたたかな見守りが良いのでは」と遊ぶPの関口怜子さんは推測します。また、プレーパークの会と遊ぶPは、トイレにトレットペーパーを設置するなど、利用者目線を生かしたアイデアを実行し、訪れた人を喜ばせました。

魅力ある公園は、市民と地域の宝

仙台市は2017年5月に「仙台市公園マネジメント方針」を策定。基本方針のひとつに「市民活動団体、民間事業者等の多様なパートナーと連携を進め、新たな公園の価値を生み出していく」ことを掲げました。局公園課は市民とともに「まちの魅力を創る公園の利活用」に取り組もうと、平成29年度仙台市市民協働事業提案制度を活用しました。担当の佐藤香代子さんは「公園には、潜在的な価値や魅力がたくさんある。それを引き出し高めることで、まちの魅力はもっと上がる」と市が目指す公園のあり方を語ります。区公園課の伊藤俊夫さんは「公園管理には、みなさんが公園を身近に感じてくれることが必要」と言います。

UDWは、一人ひとりの「こんなまちにしたい」という思いをみんなで共有し実現していくまちづくりを目指しています。力を入れているのは、都市



連絡先
西公園を育てるラボ 事務局 (NPO 法人都市デザインワークス)
〒980-0802 仙台市青葉区二日町 6-6-903
TEL 022-264-2405 FAX 022-796-0080

と自然が交じり合う広瀬川流域で賑わいの場をつくる「せんだいセントラルパーク構想」。協働事業提案制度のテーマと合致すると考え、4WEEKSを企画しました。

いつでも、だれでも、きがるに、あんぜんに。

プレーパークの会の佐々木啓子さんは「子どもが自由に遊べる公園は、大人の居場所を作ることに繋がる」と話します。遊ぶPの清水千佳さんは「市民が主体的に動いて西公園をもっと魅力的に活用しましょう」と呼びかけます。「今後も市民や地域とともに西公園の価値を探りたい」と意気込む豊嶋さん。西公園での実験が他の公園でも生かされるよう、育てるラボの取り組みは続きます。(取材・文 松田照子)

ここチェック

「杜の都」仙台の豊かな緑を楽しもう！
「せんだい百杜通信」

「せんだい百杜通信」は、NPOや仙台市などが行う緑に親しむイベント情報やボランティア情報がギュッと詰まった広報紙です。「杜の都」の風土を生かし、市民・市民活動団体・事業者・行政が協働して、「みどりと共生する都市」を創造し、未来へ継承していく取り組み「百年の杜づくり」を広めていくために発行しています。サポセンでも配布中です。
問い合わせ：仙台市建設局百年の杜推進課
TEL 022-214-8389 FAX 022-216-0637



外国人が日本で充実した生活を送れるように
― 市民ライター ― 小野恵子 ―

「動物の名前を教えてください」
「へび！いぬ！さかな！」中国語、ベトナム語などの元気な声が、休日の教室に飛び交います。「さとと日本語クラブ」は、異なる母国語を持つ小中学生が、日本語を学ぶための講座です。普段通う学校で、コミュニケーションがうまく取れず困っている子どもたちが、少人数のグループに分かれ学んでいます。

日本語を教えているのは、NPO 法人 ICAS (アイカス) 国際都市仙台を支える市民の会 (以下、ICAS) の日本語講師と学生・一般ボランティアのみなさんです。

ICAS は1987年、ボランティア日本語講師養成講座を皮切りに、外国人向け日本語講座の運営や日本文化を紹介する国際交流の活動をする団体として設立しました。仙台市在住の外国人は、1995年から2016年の20年間で、2倍近くに増えました。現在は100人に1人が外国籍を持った住民です。「外国人が言葉で困らない仙台にしたい」と続けてきた活動は、今年で30周年を迎えます。

笑い声が絶えない明るい教室には、子どもたちの真摯な学びがありました。「子どもたちが日本人の中で一緒に勉強ができるように」と支える日本語講師の熱心な姿に、外国人の存在を身近に感じることができました。



▲「さとと日本語クラブ」
場所：青葉区中央民センター
日時：毎週土曜日10時～12時
対象：日本語を母国語としない小中学生

■連絡先
NPO 法人 ICAS 国際都市仙台を支える市民の会
HP <https://ameblo.jp/icas1987nihongo/>

お立ち立本

世界を巻き込む。
出版：ダイヤモンド社 著者：中村俊裕

西アフリカのシエラレオネで活動しているNPO法人コベルニクは、世界の貧困問題を減らすために活動しています。飛び地や遠隔地のインフラが整わない地域「ラストマイル」に住む人々は、輸送費が原因で物価が高く貧困から抜け出せません。物資を作る企業や現地のNGOと連携し、貧困からの自立を促す挑戦をしています。要支援者が自ら問題を解決する支援の仕組みづくりを知ることができます。



こトナジメ

子どもの成長と自立の支援
『青少年育成アドバイザー養成講習会』

青少年の育成・支援活動をしている人や、青少年を理解するきっかけを探している人などが対象。青少年の居場所づくりや不登校などの現状と向き合い方、ネット時代の子育て教育に関わる知識と啓発の具体策などが学べます。修了者は「青少年育成アドバイザー」の認定が受けられます。
日時：2018年2月23日(金)～25日(日)
場所：東京(国立オリンピック記念青少年総合センター)
参加費：17,000円 申込み〆切：2018年1月31日
問い合わせ：青少年育成アドバイザー 東京会 TEL 090-6571-5955(配島)

